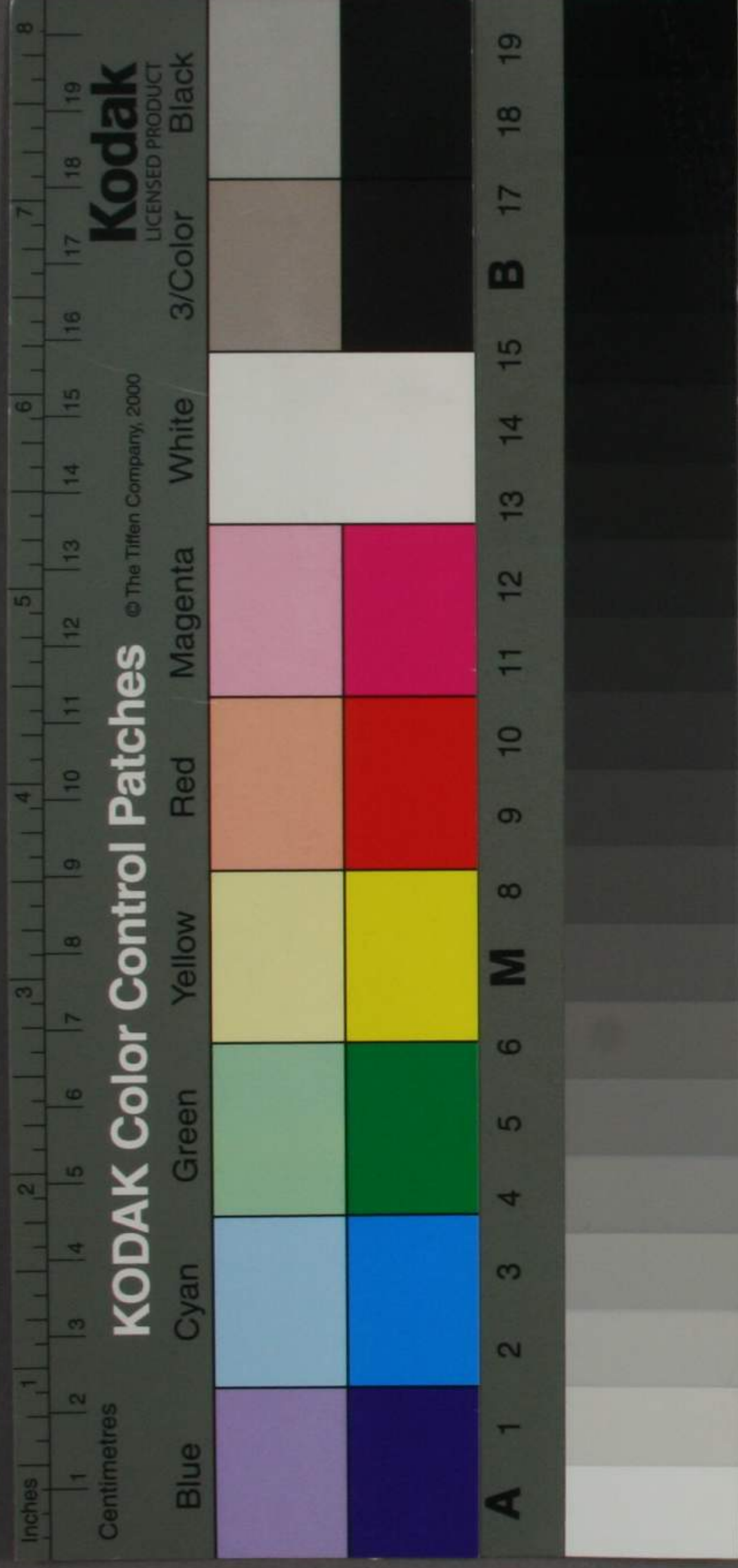


己酉年

山崎真雄

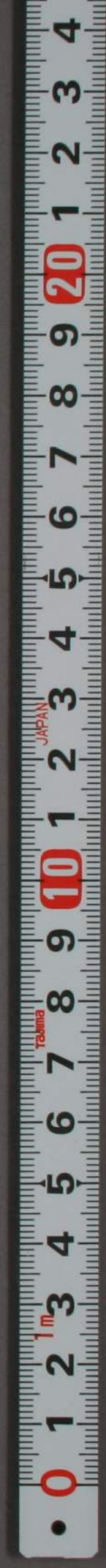
埼玉縣八間郡南高麗村名栗



No. /

一、さて例の如き聖光の市並面は大凡十年程以前、
てゝるが、その母存命、中土の流の古年代、
と抄写中

由こりり下たまはり、青紙ら枝先、
とよく存じり居り、
恐縮のまゝ、
頂上且つ面白く、冊子も意をとり、
中をりてしきい、
頂上且つ面白く、冊子も意をとり、
中をりてしきい、
頂上且つ面白く、冊子も意をとり、
中をりてしきい、



No.

偏に意見せられたりするもの。一通は上巻の平許は一通の
 池田君の親兄の許に縁ありせらるるもの。その高
 原の故古来の向や古主翁の向をどうもふもすは
 違付ちと見きして縁ありて至りしるもの。大した
 一冊のものありせんぞ。唯、ある特山孫と
 の間に文通さるるもの。幾通がありするもの。其
 の内ニ通程坂本氏の書へあゆむるものあり
 ました。その後、時折あるまゝあると採りて
 ます。如何なるもの。見つけしるもの。あゆむ

